

兵庫縣の植物

理学博士 北村 四郎

兵庫縣は大きな県である。従つて生える植物の個体数も多い。暖帯北部の植物が主であるが南海岸近くは一部暖帯南部に入るのではあろう。ノヂギクが分布しているのはこれを示すものであろう。氷ノ山が1510mで最高であるから所謂高山植物はない。然し600~700m程以上には温帯南部の植物が生えている。但馬と播磨とは可成り植生も異なるが両極端は其の海岸で、一つは日本海に面して日本海特産の沿岸植物が分布し、他は瀬戸内海に面して暖地の海岸植物がある。この県は本草時代から有名な採集地はなく、こゝの植物が知られる様になつたのは、比較的近年のことである。

フランスの宣教師ウルバン・フオーリー氏が1901年10月15日に摩耶山で可成り徹底的な採集をやつている。小泉源一博士は1927年10月に六甲山で可成り採集された。

但馬の植物は京都の荒木英一氏が今から20年程前から可成り踏査され、これを小泉源一先生が主として研究されて相当明らかになつて来た。細見末男氏や樋口繁一氏も荒木氏又は田代善太郎氏を通じて京大に標品を送られた。

日本海岸の方は殆んど処女地で色々珍しいものが出た。例えばこゝに広く分布するワカサハマギク *Chrysanthemum Makinoi* var. *wakasaense* Kitam. やスナヂノギク *Heteropappus arenae* Kitam. などは田代善太郎氏が採集し、私が研究したものである。ヤマザトタンポポ *Taraxacum Arakii* Kitam. は但馬出石郡東床ノ尾山で1933年4月23日に荒木英一氏が採集されたのが原品である。現在荒木氏は八年耐病生活をやつて居られるが氏の苦心の作、三冊植物誌が出版されたら但馬の採集家には大いに便利であらう。

播磨の植物は神戸という大きな文化都市をひかえ、この市には山の好きな文化人が多いので山草趣味も起り、阪神によつて六甲山には高山植物園が作られた。兵庫県の山本は有名な種苗商の集団地であり、宝塚には阪急によつて植物園が設けられた。中等教育界に熱心な指導者が居られ、姫路の阿部良平氏、西宮の山島吉五郎氏等は兵庫縣中等教育博物学会を組織され、この会の方々によつて植物も精査された。川崎正氏、室井紳氏、石川榮之助氏其他の方々が生徒に踏査された。牧野富太郎博士が度々招かれて講演会や採集会が開かれた。山鳥氏は小泉源一博士のところへ標品を持参して疑問を正されたり、小泉先生も招かれて採集会に出られた事もあつた。博物学会の雑誌にそれ等の研究の報告が出されたし又単行本として山鳥氏の植物隨筆や昭和12年9月には六甲山、摩耶山植物目録なども出版された。木村有香博士はヤナギの採集に六甲山に屢々登山され

た。

京大農学部林学科の岡本省吾氏は神戸市役所産業課に委派されて神戸青山植物調査書を作られ、昭和11年9月に出版された。故田代善太郎氏は古くより博物学会と関係深く、屢々採集会に参加され、又營林署に招かれて屢々国有林の植生調査を行われた。昭和10年10月には播磨植物目録が阿部良平氏によつて謄写された。これは田代氏及び室井氏の調査にもとづくという。これ等の標品の中珍らしいものは小泉、大井、田川諸博士や私も研究し、京大の標品庫に入つている。

戦後立ち上りも早く兵庫県在住の生物学関係の方々により兵庫県生物学会が組織された。植物調査の方も川崎正氏、室井紳氏其他アバン・ゲールの諸氏が引き継ぎ努力せられて居り、この雑誌に研究報告も見え、アプレ・ゲールの新人の出現も目ざましい。

淡路の方も松沢重太郎氏が古くから踏査されたが山鳥、川崎氏なども大いに調査された。新人では河野好博氏が目下熱心に調査中である。

私は京都大学に在学。小泉先生の指導で菊科植物を研究していたので、昭和12年山鳥氏の御世話でアザミに就いて博物学会で講演し、始めて博物学会の方々に紹介された。昭和15年11月17日には安井氏の御世話で博物学会の方々と大塩一曾根天神一石の宝殿に、ノヂギクを観察した。この日は建部氏の案内で淡黄の花咲くノヂギクの分布も明かとなつた。博物学会の方々と親しくして頂いた最初の機会であつた。この時菊の話をも丘陵の上で講演した。川崎、室井、石川、八代田氏等にもお目にかゝり種々楽しく話した。

戦後は昭和23年の秋兵庫高校で生物学会の集りに栽培植物の交遷について講演した。翌日大塩でノヂギクの観察を行い、乱れ咲く美しいノヂギクと、赤い果実をつけたクロの群の中で、畑に栽培してあるネギ、ダイコン、カブラ、ミズナ、ハクサイ、ニンジン、ゴボウなど栽培植物に就いて話した。井田五郎氏や、建部氏、藤原悠紀雄氏にも戦後再会。故親友淺野裕博士の話を岩谷成彦氏とかたりあつた。

1949年5月28日にはかねてより室井氏と相談していた、兵庫県生物学会主催の雪彦山採集会に参加した。私としては1933年室井氏が雪彦山で採集された珍しいテンナンシヨウの一種を解決する目的を持つていた。田川、広江、中井の三氏を姫路駅で待ち、午後三時半同乗45名でトラックに乗り、5時半頃山麓の神社に到着した。サンマータイムなので早速採集に出かけ7時頃迄頑張つた。シンジュギクが岩の崩れたところにあつた。これは志摩の朝熊山や土佐

の錦山では蛇紋岩地帯に出る植物であるので面白く思った。藤原氏は早速多数採集された。氏によると染色体数は配偶子で9でミヤマヨメナの半数であるという。それでシンジユギクが残存植物でこれからミヤマヨメナが二倍体として出現したかも知れないなど考える。田川基二博士のシダの話を聞いた。夜は座談会で私は牡丹と芍薬の話をし、川崎氏が不老長寿の薬の話をされ、氏独特の座談に時のたつのをわすれた。翌日は好天気。早くから出発、雪彦山も材木がどんどん切られている。其の上山路に2丁程の間は伐木の為に歩行困難であつた。山頂に近くイブキシモツケ、フカゲナンキンナナカマド等が珍らしい。

それからテンナンショウのある谷にかゝつた。室井氏は「なんとかして見付けますよ」との話であつたが、17年前にとつた植物を同じ場所に見付けるのは困難なこともあるのでやはり心配であつた。谷を下るにしたがつてその心配は増す。1丁程も下つた頃、やつぱり再発見されたのは室井氏。それからエツキスパートが10本程つきから次へとみつげられた。然しこの谷でも個体数は極めて少ないことを知つた。葉が1枚出る型のテンナンショウで四圍のオモゴテンナンショウに似ているが、葉裂片が小さく苞の先端が長く鋭尖形となつているので区別する。セツピコテンナンショウという名をつけることにした。谷間で簡単な記載をした。川に沿つて昼食をしていると、上の方で山路を通つて行く一行があつた。雪彦神社の神主さんの案内で、阿部良平氏の子息阿部知二氏であるという。

1949年11月3日には川崎氏と三宮駅で一緒になり、布引滝停留所で生物学会の方々とお目にかゝつた。布引滝から水源池を経て再度山に登り諏訪山に下りた。菊についての観察をした。シマカンギク、リウノウギクの花盛りである。布引の雄滝の附近と水源池から少し上つた茶店の附近では、文人菊が野生化したのか、ノヂギクが野生しているのかよくわからないが、どうも文人菊の野生化であろうと思つた。水源池上流の河原で野生のツバキを背景に昼食をして、茶とツバキの話をした。諏訪山のあたり、人家の石垣に野生化している変わった植物があるという話。室井氏の案内でそれを採集した。これは南米原産のツルムラサキ科のアカザカツラである。

帰途20年前のことを思い出した。20年前の同じ日、1930年11月3日には私はアザミ属の採集のため摩耶山に採集したのであつた。これはウルバン・フォーリー氏が摩耶山で採集したアシナガアザミ *Cirsium longipes* という不明のものを再検討するのが目的であつた。青谷から摩耶山の道を努力してさがしたが、アザミが濕地にあるのと、オタフクアザミ *C. inflatum* が乾燥地に生えているのと、秋のア

ザミは二種しかなかつた。そして結局アシナガアザミはアザミの開花後頭花が直立した時に標品に作られたものであることがわかつた。従つて *Cirsium Sieboldi* の異名とした。オタフクアザミは其の時随分沢山採集し、写真にもとつたが、結局ヨシノアザミ *C. nipponicum* var. *Yoshinoi* が乾燥地に生え菊の大きくなつた型に過ぎないと考えている。六甲山に行くつもりで再度山の方へコースを間違え途中から崖を下つた。小川に沿つて法華宗の小さい道場があつたが、其の近くで小川に懸崖となつて美しく咲き乱れたマヤサンコンギク *Aster ageratoides* subsp. *angustifolius* を採集した。こゝがこの学名の原産地である。後これは関西に広く分布して居り、菅京都でコジオンと云つたのもこれであることを知つた。ノコンギクの葉の細い亜種で、嵐山の保津川の崖にもあるのであつた。

1949年5月22日植物園協会に出席して六甲山カントリーハウスで玫瑰とキウリの話をした。六甲山高山植物園も見学した。立派な園で大いに学術上、教育上利用すべきであると思う。吉江氏の高山植物園の跡も見つた。菊池博士や本田博士と美しい山頂を散歩し、マスの養魚を見学。イワカガミ、ウスギヨウラクの花咲きは本田博士を喜ばせた。

1950年6月3日から4日にかけて兵庫県生物学会の主催で但馬の鷹の宮附近の蛇紋岩地帯に採集会を行つた。京都からは田川、廣江、中井の諸氏と私とが参加した。3日夜には座談会を行つた。森為三博士のコウノトリの話があつたり、田川、廣江、中井氏はそれぞれこの地の植物についての話があり、私は蛇紋岩地帯の植物について話した。4日は曇天であつたが、山本氏や八鹿高校の方々の御盡力により愉快的採集が出来た。タジマタムラソウ、オニナツハゼが珍しい。カシワ、ガンビ、メギ、イブキシモツケ、スズサイコなどが多かつた。この地帯に特産の種類はなかつた。これはこゝの蛇紋岩地帯の露出したのが地史的に新しいからかもしれない。

播磨では其の西南部六甲山を中心として可成りよく調査され、今では各所各季節の植生もわかつて来た。港神戸、こゝに立寄る外人の中にも植物の好きな人もあらうと思う。それ等の為にも欧米の小さい植物誌。港々に植物誌。クスノキとかアラカシ、アカガシ、シイ、アカマツなどの生態写真を入れ、モチツツジ、シヤクナゲ、ノヂギク、アセビ、ウスギヨウラク、ササユリ、イワカガミ等の野生の美しい花の彩色図版、登山コース、植物園の案内、種苗園の案内などを入れたガイドブック、これは港にすむ植物同好者が世界の同好者への親切であり、若い人達への郷土教育の資料ともなるであらう。

又新人の方々も尚よく踏査されていない播磨の山地の部分を精査され、播磨植物誌が出来ることが期待する。